

# NARO RESEARCH PRIZE 2023

## NARO方式乾田直播水稻栽培の普及拡大ツール「乾直SOP」シリーズ

古畑 昌巳<sup>1)</sup>、安江 紘幸<sup>2)</sup>、松波 寿典<sup>1)</sup>、冠 秀昭<sup>1)</sup>、篠遠 善哉<sup>1)</sup>、高橋 渉<sup>1)</sup>、山口 弘道<sup>3)</sup>、藤本 寛<sup>4)</sup>、岡本 毅<sup>4)</sup>、高橋 宙之<sup>4)</sup>、佐々木 豊<sup>5)</sup>

(<sup>1</sup>東北農業研究センター、<sup>2</sup>本部、<sup>3</sup>中日本農業研究センター、<sup>4</sup>西日本農業研究センター、<sup>5</sup>九州沖縄農業研究センター)

### 研究の目的・背景等

NARO方式乾田直播水稻栽培（以下、乾直）は、乾いた水田に大型機械で均平・鎮圧作業を行い、種籾を直接播種した後、水張りをする超省力・低コストな方式である。育苗や田植えを行わずに済み、小麦・大豆などとの輪作にも適しており、東北地方を中心に全国に普及しつつある。しかし、圃場の均平、漏水対策、雑草防除、苗立ちの安定化技術など留意点も多いことから、各地方や地域の土壌・気象等に即した作業方法を解説する乾直の標準作業手順書（以下、乾直SOP）のシリーズを編集・公開し、普及拡大を加速する。

### 研究の概要

現地の技術指導者や専門家、導入農家に向けた技術ノウハウである「乾直SOP地方版」は北海道、東北、九州の3編、「乾直SOP地域版」は岩手県、秋田県、宮城県、福島県、新潟県、石川県および滋賀県内の普及拠点向けの計12編（作成予定を含む）で構成している（図1）。具体的には各地域に適した品種や種籾の処理方法、各種作業（耕起・整地・均平・鎮圧・播種・雑草対策・湛水・施肥・病害虫防除・収穫）等が詳述されている。

NARO方式乾直の普及目標は、東北地方がR4年2,800haからR8年4,000ha、北陸地方がR4年22haからR8年100ha、西日本地域がR4年170haからR8年1,000ha、九州地方がR4年210haからR10年1,000haである。「乾直SOP」シリーズによる連携・展開は、今後全国の乾田直播栽培の普及拡大のみならず、現地の指導者不足による専門家の負担を軽減し、技術普及を加速することが期待される。

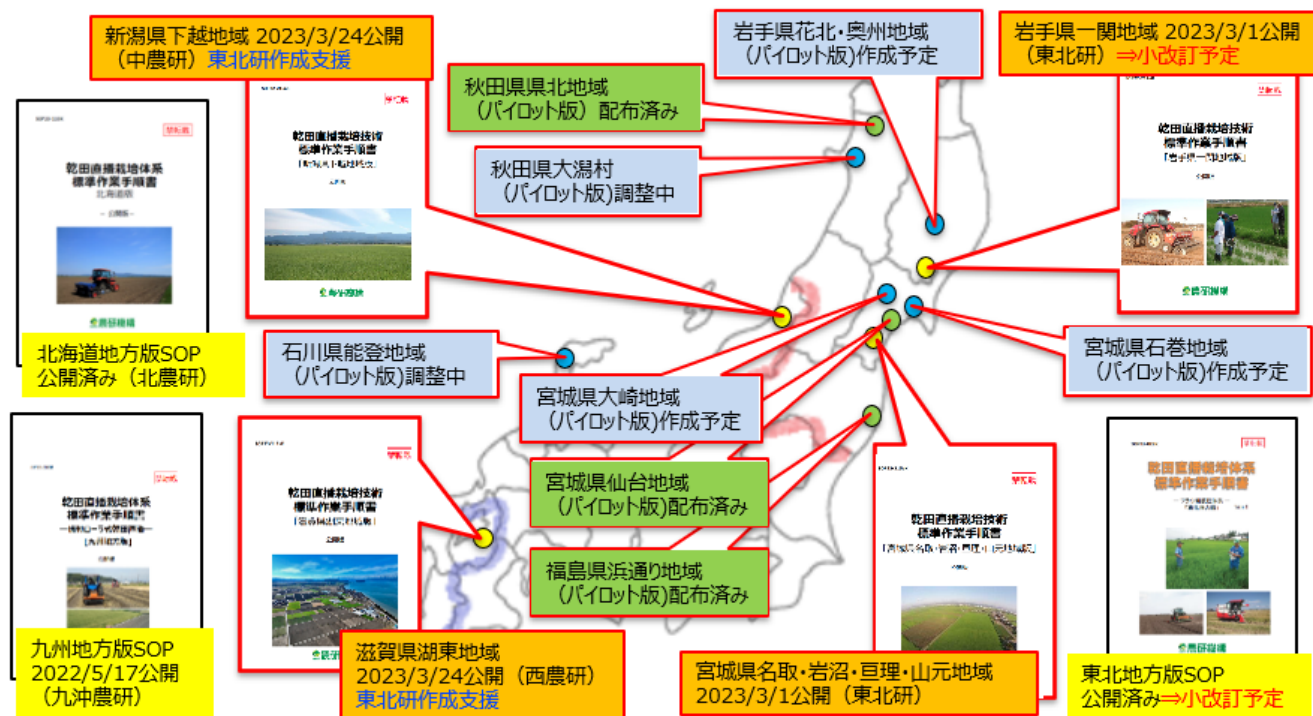


図1 乾直SOPの作成状況および作成計画

黄塗りは「地方版」、橙色塗りは「地域版」を示す。普及拠点に試験的に導入し、データ更新時等のタイミングで公開版に移行する乾直SOP地域版（パイロット版）について緑塗りは配布済み、薄水色塗りは2023年度中に作成予定もしくは現在調整中であることを示す。